



森ボラ通信

第20号 2004年 1月20日発行

北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区北1条東1丁目明治安田生命ビル8F

Tel 241-8155 Fax241-8308

E-mail : shinrin-b@pc.aaapc.co.jp

1月 勉強会

1月16日（金）リンケージプラザ、参加31名、齊藤允雄さんによるリンゴ園経営の話は、森林の手入れとは次元の違う内容で、子育てと同じくらい神経も使えば、心配りが必要で、さらに労働がきついということでした。リンゴ園を保全することは、緑の保全でもあるにはちがいませんが、森林作業とはだいぶレベルの違う技術と経験が必要なことから、支援可能な作業を分類してみました。

Aランク	Bランク	Cランク
すぐに誰でも出来る	少し勉強と経験すれば出来る	無理だからしない
粗皮削り 剪定枝の片付け 摘花・摘果 草刈 全収穫	摘葉 施肥 腐乱病の除去 ノネズミ防止	剪定 農薬散布 夏リンゴ収穫

作業スケジュールとしては3月の頭から剪定実際の見学および剪定枝の片付けから設定します。

引き続き酒井さんより、ホンデュラスの実情と今回訪問の目的についてパワーポイントの写真を使って説明があり、出席者の間では共通の理解が得られたことでした。

開始にあたり、出席された新入会員4名を紹介。終了にあたっては、植樹奉加帳への協力の呼びかけに対して、14名、24,500円の浄財がよせられました。その結果当面のホンデュラス分は20,500円、本数にして82本分となりました。今回の訪問で植樹してきたいと思います。

なお、会場にはこの18日（日）に開催される「道民とともに考える 森づくりの集い 2004」のポスターセッションに参加展示のために制作したポスターを展示し、見ていただきました。柴田さんのお陰で、わが会の活動が余すところなく、わかり易く見る人に説明されて好評でした。

1月13日（火）、定刻13時から開始。1月18日（日）の「森づくりの集い」対応について確認しました。展示用のポスター制作は柴田さん。発表は湊さんが担当します。一般にも無料で公開される行事です。会員の参観を期待します。

ホンデュラスの行程をお知らせしておきます。札幌発は1月18日、ホンデュラス入国は19日、滞在は10日間です。ホンデュラス出国は1月29日、帰札は2月1日となっています。

インターネットで呼びかけています植樹のための苗木の寄贈も31人144本となっています。内訳は国内70本、中国23本、ホンデュラス51本です。特にホンデュラスは今回の訪問で植樹してきます。

リンゴ園支援についての意見を交換しました。未経験の仕事でいろいろ困難が予想されますが、まずはやってみようという雰囲気ではあります。

出席幹事：加治、鎌田、酒井、芝、松村、湊、事務局：高野

忘年会の報告

12月25日（木）ホテルミリオーネ、参加24名。宴会は17時30分からでしたが、各部屋でたちまち懇親会がはじまりました。定刻に宴会開始、インドネシアから一時帰国の西野ご夫妻の参加もあり、酒井さんの挨拶と西野さんの乾杯音頭を簡潔に終え、直ちに飲み会となりました。山仕事も2年目に入り、顔なじみ、気心もして、たちまち座は乱れ、あちらこちらで、歓談の輪ができました。昨年大人気だった湯澤さんの特大タケノコのビン詰が今年も景品に出され、くじ引きで大いに盛り上がりました。

斉藤リンゴ園訪問

12月22日、酒井、湊、永田、高野の4人で斉藤リンゴ園を訪ねました。三角山の西山麓に位置し、西区では唯一なのだそうです。斉藤さん（68歳）はご夫婦で約200本のリンゴの木のあるリンゴ園をを経営・管理しています。特にご夫人は腰痛で、農作業がたづらくなっていることでもあるし、どちらかが欠けても成り立たない仕事であるので、止めたいのだが、手塩にかけたリンゴ園を廃園するにしのびがたく、保存できるものなら保存したいということでした。「カトレア会」の虎谷さんも見えていて、ここを試験農場と位置付け、オーナー制度で会員に出資してもらうことで、全部を任せて欲しいと要望していましたが、固定客に対して供給責任が残っていることでもあり、まずは半分の90本を「カトレア会」に任せることになるようです。当会としては緑地保存の意義から廃園にしない方向で手伝えることがあれば、ということいろいろ実情を聞きました。最もきつい仕事は摘花作業で5～7月にかけて行います。次は2～3月の剪定作業、農薬散布、収穫作業となるようです。

新入会員の紹介

安保忠義、河口幸子、佐久間澄子、武田鉄雄、丸藤尚之、山本 薫、虎谷勝行

※2004年1月16日現在 会員数92名です。

苫小牧木材関連実業現場見学会

12月18日（木）参加16名、定刻8:30に大通東1丁目の北電前を10時王子製紙正門を目指して各車出発しました。ほぼ定刻に各車相前後しましたが到着。王子製紙側の丁寧な対応に恐縮しました。工場の敷地はJR線路の西側原料置場を含めると広大でした。わざわざチャーターされたバスで案内していただきました。われわれの興味は原料の木材がらみに集中しておりまして、土場に積まれた膨大な木材やチップヤードの木材チップの説明に質問が集中していました。在庫量として原木およびチップを含めても1ヶ月分もないことにビックリしました。この工場は新聞用紙の生産では工場単位で世界一の規模を誇ります。原料の約70%弱が古紙だそうで、古新聞やチラシのリサイクルが定着していることがよく判りました。昨年同様にウトナイ湖で昼食をとり、午後から銘木市場と製材工場を回りました。

銘木市場は昨年に引き続き2回目の見学でした。何処にこんな大きな樹木があったのかと感心します。北海道はまだまだ広いと実感します。植苗の丹治林業は製材工場として活発に稼動していました。パレット用材など比較的単価は安いものと思われませんが、この不況の中での健闘が光るところです。